

ダイワ・エム・ティは、ホームページなどで、広く若者に向け、自社だけでなく日本のものづくりを支えてほしいとの願いを込め、若手社員を「工場男子」としてクローズアップしている（写真提供：ダイワ・エム・ティ）



発見
元気印
企業

「木型」の伝統技術を核に事業拡大 デザインデータから設備まで一貫製作

主に自動車開発業務に必要な型・治具・機械設備の製作、またデザイン画から3Dのデジタルデータ、並びにデザイン検討用スケールモデル製作に取り組んでいるダイワ・エム・ティ。伝統的な木型づくりから進化し、業態が拡大しつつある同社の成長を三代目に語ってもらった。（編集部）



型には、デザインを検討するための「スケールモデル」（写真）、また、設備機械に載せて「量産型」として使う型などがある。同社では、これらの型と設備機械を一貫製作する

ものづくりに必要な「型」を作り続けて100年超の企業が静岡県富士市にある。創業三代目、和久田恵子氏が率いるダイワ・エム・ティだ。

主に自動車の開発業務の分野で、デザイナーのスケッチを3Dデザインデータにし、デザインモデルを作成する業務から、試作用の樹脂型、量産型、さらに設備機械、各種治具の製作を55人ほどで担っている。

もともとダイワ・エム・ティは、恵子氏の祖父で手先が器用だったという創業者が、大正時代に同県清水市の造船業から頼まれ、船舶エンジン製作用

の木型を作り始めたのが起こり。同県富士市の製紙業からの発注もあったが、創業者は早くも昭和初期には、その後の自動車産業の拡大を見越して自動車製造向けに参入。ダイワ・エム・ティは自動車産業の興隆とともに成長してきた。

匠の技と最新の機械加工の融合

そして同社の成長は、彼らの独自の技術に支えられている。ルーツは木型作りにあるが、資材が木からケミカルウッドに変化しても木型職人に代々受け継がれてきた技術による「ものづく

り」への評価が高いのだ。ベテラン社員は削り面を触っただけで、100分の5mmの凹凸を検知できるという。同社の職人技は評価され、これまで取引先からの発注が途絶えることはほぼないとのこと。評判を聞いて新たな発注企業も現れるという状況だ。

近年は大型の門型マシニングセンター5台を導入し、大きな型の加工の依頼が増え、自動車・船舶・電車などのデザインモデルをはじめ、航空宇宙機材用のカーボン成型型の依頼も絶えないという。「当社で設備投資できるような3Dプリンターでは、精度がま

静岡県富士市

ダイワ・エム・ティ

会社概要●株式会社ダイワ・エム・ティ:1916年創業。ものづくりのデザインから量産までをサポート。型製作、製造装置製作、デザインデータ製作など。売上高10億円。従業員数:55人。本社:静岡県富士市大淵53 TEL0545-35-0350
https://www.daiwa-mt.co.jp/

車の内装材をプレスして作り出す型の調整に黙々と取り組む社員。ほかの現場でも細かい手作業が多い



だ出せない仕事。取引先には、精度を出せる技術を信頼していただいている。リーマン・ショックのような異常事態でない限り仕事を発注してくれている」（和久田氏）。

ダイワ・エム・ティの設備機械を製作する現場では、社員たちが量産時に装置が正しく作動し、製品が正しく作られるか検査や微調整に取り組んでいる。ちなみに自動車の新車が1車種開発されると、内装も刷新され、特にドアトリムはグレード別、さらにはグローバル化により国別に製作する。型数、設備機械数は年々多くなっている。

現在は、このように設備設計・設備機械も手掛けられるようになっているが、10年前までは非常に歯がゆい思いをしていたという。

当時、発注先からは型だけでなくその型を載せる設備用の機械も一緒に作ってほしいとの依頼がありつつも、対応できなかったからだ。新車種の製造となれば、新たな設備機械も必要になり、発注元にしてみれば、型も設備機械もダイワ・エム・ティに一括依頼できれば部品の量産にだけ集中できる。しかし、当時の同社には設備設計・設備機械の組み立てができる人材がいなかった。このため、その分野に参入できなかったのだ。10年前、縁あって求めていた人材が同社に入社。その後設備機械の分野に進出した。これに先んじたデザインデータ製作事業も、人材を確保してスタートしている。

「実は、確実なニーズがあり進出したいと考えているのに、進出できていない分野がある。それはロボットの分野だ」（和久田氏）。今度は、取引先から、例えば塗装用ロボットの発注があるが、同社内では製作できないため、すっかり外注してしまっているのだという。少しでも内製化できれば、設備

機械の事業はより大きくなる。大型の汎用ロボットは大手工作機械

メーカーから購入すればよい。だが部品メーカーなどが、コストの配慮された比較的小さな工作機械を作してほしいと相談を持ち掛けるのはダイワ・エム・ティのような中小企業なのだ。

高精細な型を作り上げるという1つの技術を核に、新たな人材を登用することで製作技術の分野を広げ、業容を拡大してきたダイワ・エム・ティ。同社は、この後、ロボット動作をプログラミングできる人材を確保し、ロボットの製作分野にも事業を広げることになるだろう。



ダイワ・エム・ティ 代表取締役社長
和久田 恵子 氏

わくた・けいこ 1958年静岡県富士市生まれ。東京の大学を卒業後、広告代理店に入社。88年帰郷、現ダイワ・エム・ティ入社。2006年から現職。一男一女を育て上げた

トップの思い

積極的な情報発信で 採用も取引も活発に

地元工業高校のものづくりが好きな先生方には当社に興味を持っていただき、毎年、人材を推薦してくれています。会社見学に来る生徒は、技術コンテストを通じた教育や、自動車ほか航空宇宙の仕事にも携われることなどが社員の高いモチベーションにつながっていて、これらを見て応募してくれているようです。

子育て中に縁を得た仲間で影絵劇団を結成し、今でも子供たちの想像力を影絵で養う活動を続けていますが、こうした活動を通して地元のお母さんたちにも認めてもらっています。

今の高校生は一流企業にも大勢入社しています。なので、もっと会社の知名度を上げる必要があると思っています。採用はもちろんですが、よい取引にもつながってくると思いますので、格好よく「工場男子」をホームページで紹介したり、地元の学校向けに仕事をプレゼンする機会、「（静岡県）知事を囲む産業懇話会」などがあれば積極的に参加して情報を発信しています。（談）

（特記以外の写真：田中淳一郎）

読者アンケート & 投稿

●マンスリー 参考になった記事に☑を付けてください。

- (3p) 日本大学 危機管理学部次長 教授 福田充氏
- (4p) 元気印企業(1) ダイワ・エム・ティ
- (6p) 元気印企業(2) ガゾウ
- (8p) 制裁
- (10p) 「AI」「IoT」の前にやるべきこと

●トップの情報CD 参考になったものに☑を付けてください。

- 1. オープニング/編集長・北方雅人
- 2. ポスト平成の経済課題/水野和夫氏
- 3. 中小企業のインターンシップ/中川智尚氏
- 4. エンゲージメントとは?/松林博文氏
- 5. 年休の上手な取得/中企業センター・戸田顕司
- 6. オーナー経営者に求められる条件/鰐淵美恵子氏

●投稿・通信欄

編集部へのご要望や日頃の思いなどをご自由にお書きください。今後の紙面作りの参考にさせていただきます。
誌面や音声媒体に掲載可能な場合は、「掲載可」に☑を付けてください。

掲載可 掲載不可

●ニュースリリースなど郵送される場合は、下記編集部あてにお送りください。

〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12 日経BP 日経BP総研 中堅・中小企業経営センター マンスリー編集部

アンケート・投稿 専用FAX

※裏面の各種申込書のFAX番号とは異なります。ご注意ください。 **FAX 03-5696-1114** 「日経トップリーダー」
経営者クラブ会員センター

ご送付先、ご名義の変更連絡は

しずちゅうビジネスクラブ事務局

静岡中央銀行 営業統括部内
TEL.055(962)3410(受付時間/平日9:00~17:00)



a136051a

「日経トップリーダー」
経営者クラブ

静岡中央銀行提携「日経トップリーダー」経営者クラブ 会報
SBC しずちゅう
ビジネスクラブ
Shizuchi Business Club

Monthly

2019.5

●インタビュー…03

従業員の SNS投稿をどう管理するか

日本大学 危機管理学部次長 教授 福田充氏

●発見! 元気印企業…04

木型の伝統技術核に事業拡大

静岡県富士市/ダイワ・エム・ティ

眼球・視線の解析技術で起業

新潟市中央区/ガゾウ

●経営塾…08

労務管理に必要な書類と法律 制裁

●経営革新のヒント…10

「AI」「IoT」の前にやるべきこと